

平成22年度

# 通常総会

平成22年5月17日（月）15:00～16:00

ル プ ラ 王 山

## 総会次第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 本部役員挨拶
- IV. 議 事
  1. 平成21年度事業報告
  2. 平成21年度決算報告
  3. 会計監査報告
  4. 平成22年度役員改選結果報告
  5. 平成22年度役員
  6. 平成22年度事業計画（案）
  7. 平成22年度予算（案）
  8. その他
- V. 閉会の辞

（社）情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル内

TEL : (050)5556-2856 FAX : (052)204-4783

E-mail : shibu@ipsj-tokai.jp

## 1. 平成21年度事業報告

### 1.1 支部総会

平成21年5月11日(月) ホテルルブラ王山

参加者284名 (委任状239名を含む)

### 1.2 評議員会

第1回 平成21年 5月11日(月) ホテルルブラ王山

参加者40名

第2回 平成21年12月 9日(水) 東桜会館

参加者19名

第3回 平成22年 5月17日(月) ホテルルブラ王山

### 1.3 幹事会

第1回 平成21年 4月 2日(木) 中電若竹クラブ

参加者13名

第2回 平成21年 6月 8日(月) 中電若竹クラブ

参加者10名

第3回 平成21年10月 6日(火) 中電若竹クラブ

参加者10名

第4回 平成21年11月18日(水) 中電若竹クラブ

参加者11名

第5回 平成22年 1月25日(月) 名古屋大学

参加者10名

### 1.4 電気関係学会東海支部連合大会 共催1回

・期 日：平成21年9月10日(木)、11日(金) 2日間

・会 場：愛知工業大学

・主担当学会：電子情報通信学会東海支部

・情報処理学会東海支部からの実行委員

副委員長：孫工 昇嗣 (セイノー情報サービス)

委員(4名)：新田 恒雄 (豊橋技術科学大学)

岩堀 祐之 (中部大学) 事務局兼任

大久保弘崇 (愛知県立大学)

萩川 友宏 (静岡大学)

幹事(4名)：小尻 智子 (名古屋大学)

加藤 昇平 (名古屋工業大学)

東道 徹也 (デンソー)

長屋 匡紀 (中部電力)

事務局：岩堀 祐之 (中部大学) 委員兼任

中谷 正美 (情報処理・東海支部)

・シンポジウム (情報処理学会関係分)

テーマ：「実世界に出た画像認識技術 -ITS応用を中心に-」

オーガナイザー：二宮芳樹氏(豊田中央研究所)

1. 「ITSへの画像応用」

小澤 慎治氏(愛知工科大)

2. 「夜間歩行者検出および歩行者行動予測」

内藤 貴志氏(豊田中研)

3. 「人を理解する車に向けて」

井尻 善久氏(オムロン)

4. 「画像局所特徴量による高精度な物体認識とITSへの応用」

藤吉 弘亘氏(中部大)

5. 「車載カメラからの市街地映像マップの構築と画像認識への応用」

村瀬 洋氏(名大)

・チュートリアル (情報処理学会関係分)

テーマ：「マルチプロセッサ用RTOS」

オーガナイザー：小尻智子氏(名古屋大学)

1. 「マルチプロセッサ用RTOS」

石田 利永子氏(名大)

・一般講演者 562件 (オーラルセッション495件、ポスターセッション67件)

- ・企業展示 9社
- ・広告・援助企業数 52社
- ・特別講演参加者数 68名
- ・懇親会参加者数 102名
- ・大会参加者数 1,202名

#### 幹事会

- 第1回 平成21年4月8日(水) 名古屋大学 1B電子情報館北棟 5階 電気系会議室  
第1回実行委員会に統合  
議題：開催日程・実施概要他
- 第2回 平成21年7月15日(水) 名古屋大学 1B電子情報館北棟 5階 電気系会議室  
議題：大会プログラム編成
- 第3回 平成21年9月11日(金) 愛知工業大学・AITプラザ3階 会議室  
議題：運営上の反省点および来年度への申し送り事項

#### 実行委員会

- 第1回 平成21年4月8日(水) 第1回幹事会に統合
- 第2回 平成21年7月24日(金) 名古屋大学 VBL 3階 ベンチャーホール
- 第3回 平成22年1月25日(月) 名古屋大学 豊田講堂3F 第1会議室  
奨励賞表彰式・懇親会

#### 大会の特記事項及び主な反省事項

奨励賞等選考数(奨励賞+B賞+IEEE学生奨励賞)合計：38名

審査希望申請者数 合計：376名

情報処理学会受賞者 : 6名

IEEE学生奨励賞	山本 幸祐 (名古屋大学)
連合大会奨励賞	加納 政芳 (中京大学)
〃	清水 堅 (名古屋工業大学)
〃	武知 啓介 (中部大学)
〃	谷元 勇太 (三重大学)
〃	広部 一弥 (名古屋大学)

(昨年度は選考数40名、申請者数617名、審査希望者数408名、情報処理学会6名受賞)

#### 次年度以降の予定

##### 平成22年度

会場校：中部大学  
期 日：平成22年8月30日(月)，31日(火)  
主担当学会：電気学会東海支部

##### 平成23年度

会場校：三重大学(予定)  
期 日：未定  
主担当学会：情報処理学会東海支部

#### 1.5 講演会 7回(主催7回)

(1) 平成21年5月11日(月)

演題：「学習科学とは何か」

講師：正高 信男氏 (京都大学霊長類研究所 教授)

於：ホテルルブラ王山

参加者58名

コメント：脳科学などの知見に基づいて効果的な学習方法などを研究する学問分野「学習科学」

について、主に、軽度発達障害の有無による脳の活動のしかたの違い、その違いを考慮した学習方法、および近年に軽度発達障害が問題としてとりあげられるようになったことへの考察の観点から、説明があった。

説明においては、診断や学習のための問題提示、fMRI画像の提示、さらには「ナンバー・センス」（数量に関する身体的感覚）が発見・検証されていった動物行動観察（ライオン）・動物実験（マウス）の経緯など、具体的な題材が豊富に提示され、聴衆の聴取意欲を高める工夫に富んでいた。また、軽度発達障害の克服の観点で、活発な質疑応答がなされた。以下、説明のポイントを挙げる。

- ・ ナンバー・センスが弱いと算数の学習が難しくなるが、言語的センスが高ければ、筆算を高速に解いたり、ローマ数字を高速に読むなどの訓練によって克服可能
- ・ 従来はコミュニケーションに関する軽度発達障害があっても職人として生きていくことが可能だったが、近年のIT化の進展に伴い、多くの仕事においてコミュニケーションの必要性が高くなったため、問題としてとりあげられるようになった。

(2) 平成21年7月2日(木)

演題：「視覚の数理 --- だまし絵と立体錯視」

講師：杉原厚吉氏（明治大学 研究・知財戦略機構・特任教授）

於：名古屋大学 野依記念学術交流館 カンファレンスホール

参加者95名

コメント：杉原先生は、コンピュータに図形を理解させることを目的に研究されていたが、その過程でだまし絵と言われているものの中で、実際に立体として実現可能なものがあることを発見された。

本講演ではまず、前半で2次元の画像がもたらす目の錯覚について、マラソンをしているランナーの写真や、マンションの部屋の写真など、いくつかの写真を例に挙げながら説明がなされた。また、先生が作成された立体模型を、だまし絵に見える角度から撮影したものが紹介された。

後半は、立体をコンピュータ理解させるための仕組みに関して説明がなされた。対象とする立体の仮説は、「立体は平面のみで囲まれる」、「厚みがない」、「頂点には3枚の面が接続する」、「立体を見る視点は一般の視点」、「立体には目で見える稜線だけが描かれている」である。これらの仮説の下で、見えている立体の線に「輪郭線」、「凸」、「凹」のラベルをつけたときの、頂点に接続する線の可能なラベルの組み合わせを「頂点辞書」として定義した。さらに、実現可能な立体の線と面の物理的な関係に関する方程式を考案した。これらの辞書と方程式を立体の図に適用することで、立体として実現可能な図形と不可能な図形が識別可能となる。だまし絵となる立体は、人間が見ると遠近の関係がおかしく見えるもののうち、コンピュータが実現可能と検出したものである。最後に、前半でだまし絵として紹介された立体模型の本来の形状に関して、他の角度から撮影された模型の映像を見せることで説明がなされた。だまし絵の種明かしがなされてもなおだまし絵のように見える模型もあり、とても興味深かった。

(3) 平成21年10月30日(金)

演題：「自動車MBD (Model-Based Development)における制御設計」

講師：大島 明氏

(トヨタ自動車株式会社 理事 第2パワートレイン先行開発部)

於：東桜会館1階 集会室

参加者41名

コメント：制御開発の視点から、ソフトウェア工学のアプローチに疑問を問いつける内容である。

講師の大島氏は、トヨタ自動車でエンジンの制御開発に長年携わってこられており、計測自動制御学会や多くのコンソーシアムでも活躍されている、モデルベース開発の推進役である。今回は、モデル化の様子を制御開発の理論に踏み込みながら、開発において実際に課題となることについて詳しく解説していただいた。

実際の開発においては、システム開発者とソフトウェア開発者の間に、バックグラウンドとなる知識や考え方に大きな違いがあり、その間のギャップを解消する必要と

なることがある。特に「モデル」という言葉指すところの意味が、制御分野とソフトウェア工学では相当異なる。ソフトウェア工学でいうところの「モデル」は恣意的な決め事であるのと異なり、制御分野では物理現象を対象としてモデルを組み立てる。物理現象を正確にモデル化すること葉現的には困難であるため、制御ソフトウェア開発では実測による評価を繰り返しながら制御モデルを改善していくことになる。従来の方法では、制御開発で実測を行うためにソフトウェア開発が必要となってしまう、試作の中でソフトウェアを作り変えて行く方法しかなかった。（この方法はコストと時間がかかる。）MBDはシミュレーション技術を駆使した開発手法であり、制御開発者はモデルを構築することでソフトウェアを待たずに制御ロジックを開発することができる。そのため、制御開発とソフトウェア開発をある程度並行して行うことができるようになるため、その効果は大きい。また、シミュレーションで用いたモデルからソフトウェアを自動生成することも可能となってきた。現在の技術では依然としてソフトウェアを作成する作業が存在するが、自動生成技術が発展すればソフトウェア開発作業をなくすことも考えられる。

質疑では、シミュレーションモデルからソフトウェアを自動的に生成する考え方についての議論となった。しかしながら、生成規則を意味論としてとらえる計算機科学的なものの方の見方と、物理法則に従い恣意性（意味）を排除したいという制御理論的なものの方の見方の差は大きく、同じ土俵での議論が難しいようであった。両分野をまたがる領域の難しさが改めて浮き彫りとなった講演会であった。

(4) 平成21年11月19日(木)

演題：「環境電磁波解析における信号処理とゆらぎ」

講師：内匠 逸(たくみ いち)氏 (名古屋工業大学 情報工学専攻 教授)

於：名古屋工業大学 3号館M3講義室

参加者 37名

コメント：内匠先生は、地震予測を最終的目標として環境電磁波の観測と分析を20年近く続けられている。講演では、まず、環境電磁の計測原理と装置を簡単に解説いただき、北海道から九州に至り全国に40余り点在する観測地点からの環境電磁波の観測データについて紹介された。環境電磁波には、低緯度地域で発生する熱雷や太陽風などの大域的な影響や、局所的に発生する雷や都市部の経済活動等による様々な雑音成分が複雑に混合されているため、地震予測につながる有意な信号を取り出すためには高度な雑音除去・信号分離の技術が要求される。そこで、ブラインド信号源分離 (BSS) の一手法である独立成分分析 (ICA) および Non-negative Matrix Factorization (NMF) と呼ばれる信号源分離の技術について解説された。加えて、環境電磁波からの信号源分離に特化した評価規準を考案され、いくつかの観測地点における環境電磁波を用いて有効な信号源分離が可能であるが紹介された。講演では、観測データから地震の前兆と見られる異常も含めて数多くの異常放射を分離・抽出した結果が示された。ひきつづき後半では、高次統計量解析とゆらぎ解析の技術を応用して異常放射から地震発生を予測する試みが紹介され、福岡西方沖や東海道・紀伊半島沖で2004～2005年に発生したマグニチュード7クラスの地震日時の比較的直近に起因するとみられる異常放射が捉えられた事例を紹介された。将来の地震予測・予知の実用化につながる可能性を感じる講演内容であり、大変興味深かった。

(5) 平成21年12月9日(水)

演題：「データの価値を創出するデータマネジメント技術」

講師：撫中 達司(むなか たつじ)氏

(三菱電機株式会社情報技術総合研究所 ビジネスプラットフォーム 技術部長)

於：東桜会館1階 第2会議室

参加者 43名

コメント：ストレージ技術やネットワーク技術の進歩を背景に、データ量が急増・多様化しており、多様なデータから必要な情報を抽出、活用するための「データマネジメント技術」について、それを支える技術の歴史、実現方法およびその適用例について、説明いただいた。

Googleが膨大なデータを管理するため、ネットワーク上に分散された「仮想的な大規模メモリ」を利用し、性能や信頼性を確保する「スケールアウト」という手法と対比し、サーバのリソースを追加・更新し処理能力の向上をはかる「スケールアップ」という手法について解説がされた。

「スケールアップ」とは、ディスクの大容量化を背景に、キャッシュに依存しないディスクアクセス方式として、I/O単位の拡大、データの配置、データの圧縮を工夫し、性能や信頼性を確保するというアプローチであるとともに、蓄積された膨大なデータを活用するための、高速集計エンジン、統合ログ管理、高性能並列情報検索処理からなる高速検索技術との組合せにより実現される。

従来のOLTPのように静的／蓄積型のデータ管理ではなく、センサーデータやログ、メール、監視画像など動的／実時間的かつ追記的なデータの管理に適しており、履歴追跡型ログDBを構築し、人間の行動追跡や、製品のトレーサビリティへの応用する事例が紹介された。今後、応用分野の拡大が期待される、大変興味深い内容の講演であった。

(6) 平成22年1月13日(水)

演題：「数法則発見の最新技術」

講師：中野 良平 氏 (中部大学 工学部 情報工学科 教授)

於：中部大学 リサーチセンター 2階大会議室

参加者60名

コメント：中部大学の中野良平氏に、データから数法則を発見する方法に関する最新技術に関して講演をしていただいた。最初に、数法則発見とはどのような問題であるかについて、伝統的な科学と統計科学のアプローチの違い、データから数法則を求めるのは逆問題であること、すべてが未知なのでモデル選択が必要であること、データを計る尺度との関連、数法則と変数変換との関連などについて話を伺った。次いで、基礎知識として、線形モデル、ニューラルネットと学習法、共有重み構造に関して話を伺った。本論では、多変量多項式を求める方法、名義条件付き重回帰法、名義条件付き多変量多項式を求める方法の3種の方法について、それぞれ、基本構造、対応するニューラルネット、具体的なアルゴリズム、適用結果について紹介された。最後に、この分野の研究動向とまとめや今後の課題が示された。講演後の質疑では、大域最適解の保証、多項式表現の十分性、共有重みの求め方などに関する質問が出た。

(7) 平成22年3月5日(金)

演題：「使いやすいソフトウェア 視線分析による評価と新たな設計方針」

講師：中道 上 氏 (南山大学 情報理工学部ソフトウェア工学科 講師)

於：東桜会館1階 集会室

参加者28名

コメント：Webアプリケーションの品質において重要でありながら評価の難しいユーザビリティを、視線を中心としたユーザのアクションを計測することにより評価するシステムが紹介された。後半では、ソフトウェアの品質の新たな軸としてプレミアム性を提案し、そのモデルを利用したインタフェース設計方針が紹介された。

講師の中道氏は、住友金属システム開発で企業内向けソフトウェアの開発に従事した経験をもち、メインフレーム上からWebアプリケーションに構造が変化する中で、アプリケーションのユーザビリティという品質を確保するための設計指針や評価の方法論がこれから必要になる分野であると看破され、以来精力的に研究を進めている。

講演ではまず、アプリケーションのユーザビリティを計測する方法として以前から使用されている、ユーザの発言や操作を記録して計測する方法は、有効ではあるが高コストであること、次に、Webアプリケーションに限定した際にマウス操作を記録する方法では不十分であること、そして、ユーザの視線を記録する方法が非常に有効であることが、事例を交えて示された。

そして、中道氏が開発された、ユーザ視線とWebアプリケーションの画面を記録してユーザビリティを計測するツールであるWebTracerが紹介された。このシステムは、内蔵したWebブラウザと連携してページ滞在中のユーザの視線やマウス操作をページごとに記録

する機能、記録した情報をもとにユーザビリティ上の問題点を抱える可能性の高いページを指摘する機能、記録を再生することにより、ページの具体的な問題点を検討する作業を支援する機能をもち、Webアプリケーションのユーザビリティ評価を極めて有効に支援する。

続いて、新たなソフトウェアの品質として「プレミアム性」という尺度が提案された。機能的価値である知性と、情緒的価値である感性の二つの側面でプレミアム性を定義し、そのモデルを利用したインタフェース設計方針が紹介された。

質疑においては、WebTracerの有効性や利用性、WebアプリケーションUIやコンピュータのヒューマンインタフェースの発達に伴う今後の見通しなど、活発な議論や提案が行われた。また、東海地区でのこの分野の研究者の交流を深める機会となった。

#### 1.6 研究会他 13回 (協賛13回)

(1) 平成21年7月31日(金)

「2009TEFS テクノフロンティアセミナー」

(協賛、主催：FEST実行委員会)

(2) 平成21年9月7日(月)

「シンポジウム『情報化時代の情報通信システムの性能評価』」

(協賛、主催：第6回日本OR学会中部支部)

(3) 平成21年10月16日(金)

「ソフトウェアテストシンポジウム東海2009 (略称：JaSST'09 Tokai)」

(協賛、主催：特定非営利活動法人ソフトウェアテスト技術振興協会  
JaSST'09 Tokai 実行委員会)

(4) 平成21年11月12日(木)

「プロジェクトマネジメント学会 中部支部シンポジウム」

(協賛、主催：PM学会 中部支部)

(5) 平成21年11月19日(木)

「技術講習会『音声・歌唱合成の現状と将来』」

(協賛、主催：日本音響学会東海支部)

(6) 平成21年11月27日(金)～28(土)

「第7回情報学ワークショップ WiNF 2009」

(協賛、主催：名古屋工業大学 情報工学科

共 催：名古屋大学大学院情報科学研究科、愛知県立大学情報科学共同研究所、  
静岡大学情報学部)

(7) 平成21年12月2日(火)～3日(水)

「フロンティア21エレクトロニクスショー2009」

(協賛、主催：中部エレクトロニクス振興会)

(8) 平成21年12月12日(土)～16日(水)

「The 12th International Conference on Principles of Practice in  
Multi-Agent Systems (PRIMA2009)」

(協賛、主催：PRIMA2009実行委員会)

(9) 平成21年12月17日(木)

「名古屋大学大学院情報科学研究科 基盤研究公開セミナー」

(協賛、主 催：名古屋大学大学院情報科学研究科)

(10) 平成22年1月27日(水)

「平成21年度専門講習会『EMCの現状と動向』」

(協賛、主 催：電子情報通信学会本部、同東海支部)

(11) 平成22年2月17日(水)～18日(木)

「平成21年度技術融合化シンポジウム」

(協賛、主 催：名古屋市工業研究所)

(12) 平成22年2月19日(金)

「名古屋大学大学院情報科学研究科学術講演会『Signature Verification from Research to Commercial Application: Experience of 25 years』」

(協賛、主 催：名古屋大学大学院情報科学研究科)

(13) 平成22年2月24日(水)

「電子情報通信学会海支部平成21年度第5回一般講演会

『700MHz帯を用いた運転支援通信システムの最近の動向』」

(協賛、主 催：電子情報通信学会 東海支部)

#### 1.7 平成21年度学生研究発表会助成

助成：2件

(1) 「第13回 東海地区音声関連研究室 修士論文中間発表会」

実施日：平成21年8月3日

参加者数：143名 発表件数：49件

(2) 「第7回情報学ワークショップ WinNF2009」

実施日：平成21年11月27日(金)～28日(土)

参加者数144名 講演件数：72件

#### 1.8 学生論文奨励賞

募集期間：平成22年1月15日(金)から平成22年3月15日(月)

選定委員会：平成22年4月22日(木) 若竹クラブ

表彰式：平成22年5月17日(月) 於：ルブラ王山

授賞者：太田 健吾(おおた けんご) (豊橋技術科学大学)

瀬戸 大作(せと だいさく) (静岡大学)

高田 悠(たかだ ゆう) (静岡大学)

橋詰 葵(はしづめ あおい) (静岡大学)

原 祐子(はら ゆうこ) (名古屋大学)

范 薇(ふあん うえい) (名古屋大学)

山西 良典(やまにし りょうすけ) (名古屋工業大学)

吉岡 昇平(よしおか しょうへい) (名古屋大学)

(五十音順)



## 2. 平成21年度決算報告

### 2.1 収入の部

(単位：円)

平成21年4月1日～平成22年3月31日

収入科目	平成21年度	
	予算額	決算額
交付金	3,030,000	3,030,000
(本部交付金)	2,470,000	2,470,000
(賛助金還元分)	560,000	560,000
利息	2,000	640
前年度繰越金	1,794,799	1,794,799
計	4,826,799	4,825,439

### 2.2 支出の部

支出科目	平成21年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,750,000	1,378,715
年次総会費	510,000	454,209
講演会・研究会費	280,000	264,330
支部連合大会費	300,000	154,964
支部表彰費	165,000	126,320
支部助成金費	110,000	80,000
会議費	385,000	298,892
2. 事務費	1,950,000	1,937,555
通信費	55,000	44,310
消耗品費	15,000	16,807
郵便運搬費	10,000	8,578
雑費	5,000	3,060
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	1,126,799	
4. 次年度繰越金		1,509,169
計	4,826,799	4,825,439

### 3. 会計監査報告

平成21年度収支決算書・平成21年度監査報告書……………添付資料 (P14)

### 4. 平成22年度支部役員改選結果報告

選挙期間：平成22年2月1日～平成22年3月3日

A：投票用紙発送数 1, 191件 (1月現在会費納入済の正会員および名誉会員)

B：投票数 293票

C：投票率 [B/A] 24.6%

D：開票結果

役職	候補者氏名	得票数
支部長	にった つねお 新田 恒雄	265
副支部長	かわかつ つとむ 川勝 務	266
幹事	いりべゆりえ 入部百合絵	248
〃	すずき ひでとも 鈴木 秀智	245
〃	まつばら しげき 松原 茂樹	252
監事	すえなが やすひと 末永 康仁	265

退任者 支部長 孫工 昇嗣 (セイノー情報サービス)  
副支部長 新田 恒雄 (豊橋技科大)  
幹事 岩堀 祐之 (中部大)  
幹事 大久保弘崇 (愛県大)  
幹事 小尻 智子 (名大)

留任者 幹事 加藤 昇平 (名工大)  
幹事 東道 徹也 (デンソー)  
幹事 長屋 匡紀 (中電)

5. 平成22年度支部役員

(\*新任、\*\*再任、無印2年目)

役員	氏名	(所属)
支部長	* 新田 恒雄	(豊橋技術科学大学)
副支部長	* 川勝 務	(アイシン・インフォテックス)
幹事	* 入部百合絵	(豊橋技術科学大学)
	加藤 昇平	(名古屋工業大学)
	* 鈴木 秀智	(三重大学)
	東道 徹也	(デンソー)
	* 長屋 匡紀	(中部電力)
	* 松原 茂樹	(名古屋大学)
監事	* 末永 康仁	(愛知工業大学)
評議員	浅井 徹	(愛知県産業技術研究所)
	有本 昇喜	(富士通中部システムズ)
	* 伊藤 謙二	(トヨタ自動車)
	* 犬塚 信博	(名古屋工業大学)
	宇田川智之	(沖ソフトウェア)
	太田 義勝	(三重大学)
	奥野 清一	(デンソー)
	* 川崎 正幸	(セイコーエプソン)
	* 先砥 修	(東邦ガス情報システム)
	鈴木 裕利	(中部大学)
	** 長瀬 進治	(中部電力)
	* 沼田 宗敏	(中京大学)
	蜂巢 吉成	(南山大学)
	** 林 誠	(日立オムロンターミナルソリューションズ)
	* 速水 悟	(岐阜大学)
	萩川 友宏	(静岡大学)
	* 菱田 隆彰	(愛知工業大学)
	丸山 稔	(信州大学)
	三浦 純	(豊橋技術科学大学)
	** 水野 徳重	(メイテツコム)
三代沢 正	(諏訪東京理科大学)	
山村 毅	(愛知県立大学)	
結縁 祥治	(名古屋大学)	
吉川 雅弥	(名城大学)	
吉澤 明芳	(萩原電気)	

(五十音順)

## 6. 平成22年度事業計画(案)

6.1 支部総会 平成22年5月17日(月) ルブラ王山

### 6.2 評議員会 3回

第1回 平成22年5月17日(月) ルブラ王山

第2回 平成22年12月上旬(予定)

第3回 平成23年5月(予定)(平成23年度支部総会開催日)

### 6.3 幹事会 5回

第1回 平成22年4月2日(金) 若竹クラブ

第2回 平成22年6月14日(月)(予定)

第3回 平成22年10月上旬(予定)

第4回 平成22年11月下旬(予定)

第5回 平成22年1月中旬(予定)

### 6.4 支部大会(電気関係学会東海支部連合大会として)

期 日:平成22年8月30日(月)、11日(火)2日間

会 場:中部大学春日井キャンパス

主担当学会:電気学会東海支部

概 要:・特別講演(1件)  
・合同企画シンポジウム(1件)  
・シンポジウム・チュートリアル(3件)  
・一般講演(公募)  
・懇親会  
・広告募集・企業展示募集  
・奨励賞

主 催:電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、  
照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、  
電気設備学会中部支部、IEEE名古屋支部

運 営:電気関係学会東海支部連合会

#### 情報処理学会東海支部関係

##### (1) 合同企画シンポジウム

テーマ:「わが国におけるスマートグリッドと方向性(仮題)」

(3学会合同企画:電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会)

##### (2) 情報処理学会企画シンポジウム

テーマ:未定

### 6.5 講演会 主催7回

#### (1) 平成22年5月17日(月) 特別講演

演題:「おしゃべりなロングテールの時代」

講師:熊坂 賢次氏(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

財団法人ソフトピアジャパン 理事長)

於:ルブラ王山

※上記を含め7回開催予定

### 6.6 研究会 随時

### 6.7 学生研究発表会助成

複数の大学にまたがる場で研究発表会を開催し、研鑽を積むことを目指す学生を支援する

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部会員

助成対象発表会：平成22年3月1日～平成23年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：平成22年2月1日～平成23年2月28日

### 6.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員も含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成績をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する

申請期間：平成23年1月中旬～3月中旬

選定委員会：平成23年4月中旬

表彰式：平成23年5月（通常総会）

### 6.9 幹事の業務分担について

業務別担当

- ・副支部長：川勝副支部長（支部長のサポート）
- ・総括担当：加藤幹事・入部幹事（幹事の取りまとめ、会議資料（案）チェック）
- ・庶務担当：東道幹事（総務、議事録作成）
- ・会計担当：長屋幹事（会計管理・事務局監督員）
- ・学生担当：鈴木幹事
- ・ホームページ担当：松原幹事（ホームページ掲載・イベント会員案内）

7. 平成22年度予算（案）

7.1 収入の部

（単位：円）

収入科目	平成21年度		平成22年度
	予算額	決算額	予算額(案)
交付金	3,030,000	3,030,000	2,920,000
(本部交付金)	2,470,000	2,470,000	2,420,000
(賛助金還元分)	560,000	560,000	500,000
利息	2,000	640	100
前年度繰越金	1,794,799	1,794,799	1,509,169
計	4,826,799	4,825,439	4,429,269

7.2 支出の部

（単位：円）

支出科目	平成21年度		平成22年度
	予算額	決算額	予算額(案)
1. 事業費	1,750,000	1,378,715	1,750,000
年次総会費	510,000	454,209	490,000
講演会・研究会費	280,000	264,330	280,000
支部連合大会費	300,000	154,964	300,000
支部表彰費	165,000	126,320	195,000
支部助成金費	110,000	80,000	100,000
会議費	385,000	298,892	385,000
2. 事務費	1,950,000	1,937,555	1,950,000
通信費	55,000	44,310	50,000
消耗品費	15,000	16,807	20,000
郵便運搬費	10,000	8,578	10,000
雑費	5,000	3,060	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,865,000
3. 予備費	1,126,799		729,269
4. 次年度繰越金		1,509,169	
計	4,826,799	4,825,439	4,429,269

8. その他

情報処理学会東海支部

## 平成21年度収支決算書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

(単位：円)

収入科目	決算額	支出科目	決算額
本部交付金	3,030,000	1. 事業費	1,378,715
支部交付金	2,470,000	年次総会費	454,209
賛助金還元	560,000	講演会・研究会費	264,330
前年度繰越金	1,794,799	支部連合大会費	154,964
利息	640	支部表彰費	126,320
		助成金費	80,000
		会議費	298,892
		記念行事	0
		2. 事務費	1,937,555
		通信費	44,310
		消耗品費	16,807
		郵便費	8,578
		雑費	3,060
		事務委託費	1,864,800
		3. 次年度繰越金	1,509,169
合計	4,825,439	合計	4,825,439

## 平成21年度監査報告書

平成22年4月13日

社団法人情報処理学会東海支部  
支部長 孫工 昇嗣 殿

平成21年度 情報処理学会東海支部

監事 阿草清彦 (印)

平成21年度収支決算書について監査の結果、その適正なことを認めます。

以上